

ウイフ梅鹽デ本家ノ家風デアルカラ嫁入先マデ持つテ行キテ結構トイハレヌ、東京ニ行ハル、コトガ地方ニ適スルデシヨウカ、ツマリ前ノ手ヒドキ攻撃ニ思ヒ合セテ張合ヒ反對スルコトノ出来ヌ弱味デアル、本校卒業後ハ多數ハ寄宿舎ヲ持ツデアラウ此寄宿舎ハナクテハナラナイ寄宿舎ノ目的ハココヨリ出デテ社會ヤ家庭ニ入りテ家庭生活ト社會生活ト寄宿舎生活ガ矛盾ガアツテハスマナイ私ニモカウシタナラバヨイト云フ考ハナイ皆様モ卒業後工夫ガアラバ教ヘテ貰ヒタイ、又熱心ナル研究ガ願ヒタイ、トリトメモナイ話デアリマスガコレヨリ以外ニ材料ガアリマセヌ、ヨイ話ガアツタナラバ又御話シ致シマシヨウ。(文責記者)

裁縫科の過去及現在

技 四

布帛を以て衣服を調製する裁縫の道は古來女子の手藝の最も重要なものとして傳へたり、それ衣食住は人類生活上の要素なり、故にその衣を整ふる裁縫が人類生活上に必要なは明かなる所なり。

我が國裁縫の沿革

一、太古

魏志倭人傳に

男子皆露紵以木綿拈頭。其衣橫幅且結束相連略無縫。婦人被髮屈紵作衣如單被而穿其中央貫頭衣之。

とあるが如く太古に於ては未だ裁ち縫ふことなく結束相連ねてその中央を穿ちて之に頭をさし入れて之を被りしが如し、その後如何にして發達したるかは不明なれども裁ち縫ひをなすに至りしものの如し、即ち神代紀に伊弉諾尊御みそぎさせ給はんとて御身につけられしものなげすて給へる事をかけるに御袴あり、御裳あり、御衣御帶などあるを見ても推知し得らるべし。

一、佛教渡來の頃

裁縫の術はありしも未だ精しからざりしかば應神天皇の十四年縫衣工女を百濟より迎へられ又同三十七年には之を吳に徴し給ひぬこれより裁縫の術精しくなれり。

一、奈良平安朝時代

その後文武天皇の大寶元年に大寶令を制定せらるる其中に中務省の制あり裁縫はこの中務省の下に縫殿寮ありて女王及令婦の裁縫の事を主として司れり、又女官の内に縫の司ありて裁縫組系のことを司るその役員の大體は尙縫一人典縫二人掌縫四人ありき。

此の外に大藏省の下に縫部司ありて衛士等の衣服を裁縫したり、其の主なる役員は正一人佑一人令史一人縫部四人使部六人直丁一人縫女部ありたり、この縫部司は後に縫殿寮と合併せり、而して縫殿寮にては内人に給し縫部司にては主として外人に給せしと古記に見へたり。かくの如く朝廷に於ては裁縫のために特別の役所を設け役員を置き又それにはそれそれ位までも給はり裁縫の業を務めしめ給ひき、されば當時の女子は貴賤の別なく裁縫組糸を以て事とし袍袴の類をも悉く皆裁縫するのみならず、又よく之を集めて巧を極めし者ありき、即ち清少納言が一條天皇の皇后の衣を縫ひ奉りたりといふをみても知るべし、又右大臣藤原良相の女なる染殿内侍が右大臣藤原能有のために雲鶴の紋を染めんとせしを以ても女子が染物までも自らなせしを知るべし。

然るに平安朝の末に至り文學盛んに行はれ上流の女子は多くは詩歌の興を究めあるは管絃遊藝などに心を向くること甚だしきに至りて上流の婦人にして裁縫をする人少くなれり、而して此の道は専ら下流の人のとる所となれり。

一、鎌倉時代

もはや鎌倉時代に至りては縫物師組師ありて之を職業とするものさへあるに至れり併し之等は皆女子なりき。

一、徳川時代

徳川四代將軍家綱より七代家繼に至る即ち元祿の頃は世人の服装華美の極に達し種々の衣服を作りて競へり爲に裁縫の道も大に行はれ仕立屋等いふものも出来たり。

而して此の道を子女に傳ふるの方法は古き時代に於ては主として家庭に於て行はれたり、徳川時代に至りては諸氏が母祖母等より寝物語りにきかれし事ならんも地方によりて多少異れり併し大體は

- 1、寺小屋の師匠の妻女が之を教へたり。
- 2、裁縫師匠が多くの弟子を集めて之を教へたり。
- 3、身分よき家に小間使として御姫様の御稽古の傍にて習ふこと等もありき。

但し武士の家庭に於ては主に家庭に於て之を教へたとへ他所に出して習はしむるも之を公言する事をはばかり大に母の恥とせりこれ誠に美風なりといふべし。

而して女子は十歳以上にもなれば貴賤の別なく大方は縫物を習ひしなりしてその教授の方法といふは全く個別的にして模倣を主としあへて理解に訴ふる事なく系統あり考案ある教授をするにあらざるを以て多くの年限を費すにあらざれば之を修得する事能はざりき、されど此の時代に於ては婦人の學ぶべき事も今日の如く多岐に互るの必要なく裁縫を以て唯一教科となしたるが故に其家庭に於て學ぶと裁縫師匠につきて學ぶとにかかはらず婚嫁するに至る迄専ら此の技の修養につ

とめたり。されば技術に於ては近頃の同年輩の人に比しては確かに手早く且手奇麗になし得たるなるべし。

明治五年に學制を發布せられ小學校及び師範學校等の教則を定められ、我國の教育は此に大變化を來したるが殊に女子の教育には一大變動を來せり、然し此頃にはすべて西洋の風となりたる時にて女子に裁縫の教科を置くことなかりしが、手藝としてやはり此科を課したり。又當時手藝の教員を養成する學校としてもなき故適當なる教員を得るの道なく爲に此科の成績をあぐる事甚だ困難なりき。然るに明治十六七年の頃仙臺に朴澤三代治といふ人ありて衣服の分解教授を主張せられ初等教育に貢献する所少からざりき。之より前明治七八年頃東京裁縫女學校長たりし渡邊辰五郎氏は半紙半幅を木綿幅と看做し鯨尺三寸五分を一尺としたる雛形尺を作られ半紙二枚を以て一つ身三枚を以て三つ身四つ身には四枚本裁には六枚を以て裁つ事を考へられ之を以て裁方及び積方の練習をなさしめたり、かくの如くして爾後現今に到るまで初等教育に於ても中等教育に於ても屢教則の改正ありしと雖も、裁縫は益々重きを加へられ且、専門的職業的に之を研究するもの多くなれり。

外國手藝の沿革。

ただに我國の裁縫に於てかゝるのみならず外國に於ても太古にありては木の葉を集め或は獸皮をばぎて寒を妨ぎ植物の纖維をつなぎ合せて身にまごへるもの、如し、漸次進みて獸毛を集めて一種の製作物となし又植物より綿をとりて同じく材料となすに到れり、然して十世紀の頃には裁縫紡績等の業盛んとなり、十一世紀より十二世紀に互りては次第に華美に趣き刺繡寶石等の裝飾をも用ふるに至り十七世紀の終り頃より追々其形整ひて今日の有様を見るに到れり。

次に本科の教授につき述べんに歐洲に於ても古は我國と同じく主として家庭に於て行はれたれども中世紀に於てや、此風すたれば家庭以外に之が補助を求むるに到れり。プロシヤにては編物學校といへる一種の技藝學校設置せられ女兒に最も必要な裁縫を授けたり、かくて一般に女子手工科（衣服の縫ひ方裁ち方繕ひ方靴下シャツの編方等）の必要を認められ普通の女兒にも之を課する事となりしが十七世紀に到り久しく戰亂打續きたるを以て此施設は全く破却せられたり。然るに十八世紀頃再び手工學校を設置せられ、多くの女兒は此種の學校に於て教育を受くるに到れり。往々西洋婦人は日本婦人の如く裁縫を手をせずと聞けども之は近頃華美になりて其仕立方等も複雑となりたれば余程の技柄ある人にあらざればなし得ざるより來れる結果にして現今と雖も全くなさざるにあらず下着、寢衣、小供服等は矢張り家庭に於てなすなりといふ。

支那に於ても我國及び歐洲諸國と同様なる有様に於て發達したるものと推せらる、殊に支那婦人は諸氏の知らるゝ如く外出の自由を妨げられたれば家庭にありて専ら裁縫手藝を事とし爲に此技

には頗る秀でたりしと云く。

斯の如く裁縫の女子に大切なるは東西古今を通じて疑ふべからざるなり、即ち女子は天性家事及び裁縫の如き微密なる事をなすに適せるのみならず又かゝる緻密なる仕事を掌るによりて益々女らしき性を養ふ事を得。又之によりて質素儉約忍耐親切等の美德を養ふ事を得れば女子たるものは必ず自己の衣服は勿論夫、子供及び家人の衣服はなるべく自ら手を下してなすべきなり、殊に小供に及ぼす影響は母親の之をなしたると仕立屋になさしめたるは大に異りとす。

更に進みて本科の教授法の新舊の差に關して少しく述べんとす。

一 教授の方法。

前述の如く従來は個別教授にして師匠は弟子の手をとりて直接に教授せしなり之此時代には御針子の數も少く又たとへ其數多くとも姉弟子は新參者を教ふるといふ有様なりしが故なり。

然るに今日は一齋教授なり。

勿論兩者は互に得失ありて何れの一方のみにも其完全なる法といふべからず、即ち個別教授に於ては各生徒の程度によりて適當に明細に理會せしむる事を得、然れども又多くの生徒を一時に教ふる事を得ず。又個別教授にして教師は生徒につきりたる時は其教師にして人格に於て欠くる事なき時は只其術に通せしむるのみならず大いに品性上に良感化を及ぼすなり。又個別教授は

生徒に依頼心を起さしめ何事をなすにも教師より手始めを爲し與ふるに非ざれば爲し能はざるに至るべしと思ふ。今日の學校制度に於ては原則として一齋教授なり。然し前述の理によりて此の法のみにては決して各生徒に精確に裁縫に關する智識技能を授くるを得ず。故に此の兩法の各の得とする所を取りて以て教授の成功をはかるべし。

二 教育者及び被教育者の學力。

従來の女子は今日の如く女子の教育盛んならざりしかば一般に師匠、弟子ともに今日の其れに比して學力劣れり。されば只其術に精熟するのみを以て目的となしたるが如し。然るに今日は學問日に進歩して女子と雖も昔の男子も及ばぬ數理の研究をなすに至りたれば裁縫は單に一の術にあらずして一の學科となり裁方積り方等も具體的に之を示すのみならず一般の原理原則等を授くるに至りたれば應用の法も考ふる事を得るに至れり、然るに昔の女子の如く裁縫のみを習ふに非ざるを以て、術に於てはそれに劣る所あり、されど之れを以て今日の方が劣れりとは決して云ふ能はず、又教師の人格に於ても今日に於ては高尚になりたれば生徒に感化を及ぼすことも従前に比して大なり。

三 設備の進歩。

従來の裁縫教室及び用具は消極的にして只之を爲し得れば足れりとせり、然れ共今日は積極的に

いよく容易に且完全に便利に之をなさんとて種々考案し設備するなり。而して唯に裁縫をなす上に於てのみならず身體の發育上には大に注意するに至れり、かく設備の完全となれるは一は學理の進歩によるなれ其他の一は從來は多く個人の私營になれるが今日の學校は多くは公立なればなり、かゝる完全又は完全に近き設備ある所に於て學ぶ我々は昔の人の窮屈なる思ひをなして爲せることを考ふれば實に感謝すべき事なりとす。

かくの如く昔と今とは種々なる點に於て變れるが故に今後我等此の科を教へんとするものはよく新舊兩法の特質を採用して益々此の科の完全をはかるべきなり。

前述の如く我等は今日の新教育を受けたるものなれば、術に於ては多年の經驗ある人に比すれば大に劣れ其教育學其の他の科に於ける理論方面の智識は少しは多く有するなり、裁縫はもと、術を主とし理論は術を完全にし且之を活用する爲のものなれば兩者は相俟つて必要なものなり。ざれば經驗ある人に敬意を以て對し自己も進みて經驗をつまん事をつとむべし。それと同時に學び得たる學理を應用して教授の方法及設備の上に充分なる工夫をめぐらし且從來の良風を保存することをつとむべし。又教師自身に於ては人格の修養に意をといめ生徒に善良なる感化を與ふることを心掛くべし。

最後に今日女子の裁縫が如何なる趨勢に向へるかを考ふるに西洋文化の輸入と共に女子の業は昔の如く單一なるものにあらずいよく複雑となりて或は交際界に或は教育界に其の貢獻する範圍は漸々擴張せられたり。之女子教育の進歩せる結果にして其の爲に得る利も又大なりと雖も近來往々女子の本職を誤りて家事を整へて専心家人の世話をなす事を忘れ、爲めに裁縫の如きも自然に職人の手に託するあり。之大なる誤りなり彼の西洋婦人にして男子と同じく社會に出で職業に従來せんとするもの多き爲めに如何に其の社會に悪影響を來せるかを考へよ、彼の國にて未婚の男女多きは實に之が爲めなり。かゝる悲しむべき状態に陥らしむると否とは只現代即ち新舊過渡期に遭遇せる女子の確固たる決心にあるなり。されば將來の女子を教育する我等は他の學理と相俟つて此の術の必要及び目的を明からに知らしめ且益々此の科の改善進歩を計らんことを期すべきなり。

研 究

燒鍔の物理學的觀察

近藤耕藏先生

鍔を燒いて、濕りをかけた布の上に押し動かして、皺を延ばし、形を整へると云ふ仕事の内には殆んど熱學の全部が含まれて居て、余程具味の多いものである。今其内の主なる數點に就て述べて見やうと思ふ。